

令和 7 年度第 9 回印西市総合教育会議に関するアンケートについて

テーマ「教育ビジョン（素案）について」

※会議の様子は市 YouTube チャンネルからご覧いただけます。

令和 7 年度第 9 回会議のアーカイブは次のとおりです。

<https://www.youtube.com/watch?v=hOtlUQPcbc>

いただいた質問とその回答（今回のテーマについて）

ご質問

Was the survey conducted on both ALTs and Japanese language support staff? It seems that no concrete measures were mentioned regarding support for children with foreign roots. Do you have any specific plans for them in your vision? Has any survey been carried out among teachers to assess changes in their physical health, stress levels, and overall work effectiveness after introducing devices in the classroom?

1. 調査は ALT と日本語支援スタッフの両方を対象に実施されましたか？
2. 外国にルーツを持つ子どもへの支援について、具体的な施策が言及されていないように見えます。ビジョンの中で、そういった子どもたちに対する具体的な計画はありますか？
3. 教室に端末を導入した後、教員の身体的健康、ストレス状況、業務効率化の変化を測る調査は実施していますか？

回答

1. The staff survey conducted starting November 10 was carried out to understand the actual working conditions of faculty and staff who are directly involved in school administration and classroom practices. Therefore, ALTs (Assistant Language Teachers) and Japanese-language support staff, whose employment status and assigned duties differ, were not included as survey subjects.
2. Regarding support for children with foreign backgrounds (roots):
Under the “01 Teachers: Working Project,” in Policy ① “Strengthening Personnel Structure,” the implementation direction of “Allocating personnel who can provide tailored support based on students’ educational needs” includes examining the appropriate placement of ALTs, English education coordinators, and Japanese-language instructors.
In Policy ② “Optimizing Workload and Working Hours,” the implementation direction of “Improving work efficiency and educational quality through advanced digital infrastructure” includes considering the use of translation applications and generative AI tools to further enhance Japanese-language instruction.
Under the “02 Children: Learning Project,” in Policy ④ “Ensuring Diverse

Learning and Establishing Inclusive Support Systems,” the implementation direction of “Enhancing the inclusive education system” will be examined as part of creating school environments where all children can participate in learning in a way that is true to themselves.

3. Regarding physical health and stress conditions: School staff undergo annual health checkups and stress checks, and the results are provided to each individual and retained for a certain period by their school and the City Board of Education. These data are used not only to understand individual health conditions but also to identify and address health issues at the school or municipal level.

Regarding work efficiency, surveys have been conducted at each elementary and junior high school. Last year’s survey indicated that “the digitization of school administration has streamlined overall operations and reduced workload,” as evaluated by all 27 schools. Please note that this survey was administered at the school level, not individually for each staff member.

1. 11 月 10 日から実施した教職員アンケートは校務運営や授業実践に直接関わる教職員の業務実態を把握することを目的として実施いたしましたことから、任用形態や担当業務が異なる ALT 及び日本語支援スタッフの方々は対象としておりません。

2. 外国にルーツを持つ子どもへの支援につきましては、

「01 教職員：働くプロジェクト」の施策①「人員体制の強化」の実施の方向性「児童生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を行う人材配置」の中で、ALT や英語教育コーディネーター、日本語指導員の適正な配置について検討してまいります。

また、施策②「業務・勤務時間の適正化」の実施の方向性「デジタル基盤の高度化による業務の効率化と教育の質の向上」の中で、翻訳アプリや生成 AI ツールの活用を検討するなど日本語指導の充実を目指してまいります。

さらに、「02 子ども：学ぶプロジェクト」の施策④「多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備」の実施の方向性「インクルーシブ教育システムの充実」の中で、すべての子どもが自分らしく学びに参加できる環境や学校づくりの一環として検討してまいります。

3. 身体的健康ならびにストレス状況について、学校職員は毎年健康診断・ストレスチェックを実施しており、その結果は職員個々にフィードバックされるとともに、所属校や市教育委員会で一定期間保存しています。これは個人の健康状態の把握のほか、学校または市全体の健康課題の特定や改善に繋げています。

業務効率化について、各小中学校に調査を実施しています。昨年度の調査では、「校務の情報化によって校務全般が効率化され、負担軽減がなされている」と全 27 小中学校が評価しました。なお、この調査はあくまでも学校への調査であり、学校職員個々に行われたものではありません。

いただいたご意見（今回のテーマについて）

- ・定期試験の回数が減ると子供の負担が増える 学校現場の実情、教員からの課題が挙げられたことに対し教育長を高く評価する 地域を取り込むには保護者含む市民全体への学校や教育に対する理解が不可欠であるが家庭教育について触れられていない。今後のコミュニティースクールに期待したいところではあるが登下校の見守り読み聞かせなどの議論をしているのは残念。部活地域移行で週末以外の教員の負担に変化がないことに驚いた。移行期間は理解する。今後の展開に期待したい。市長が学校を廻る時間が管理職の負担になるのは明らか。社会教育の件で市長が介入しすぎる指摘を受けたことを肝に銘じるべき。議長が自分なりの意見を言いすぎる傾向はよくない。

日本一、世界一と順位や優劣をつける考え方、他と比較する考え方、大風呂敷を広げるワードが目につく。個性重視の今の教育に適合しない。その大人の考え方を改めてもらいたい。総合計画に掲げないでももらいたい。他のいいところを取り入れつつ印西は印西の個性を大事にする考え方に転換してもらいたい。プログラミングについてあの時間は無駄だったとならないことを願う

- ・意見は伝え済みです。

「教育」会議で、いいですか？等の議長の言葉について、教育を良くしようとご尽力されている会議参加者皆様のご意見を伺いたいと思いました。振り回されている委員会には話しに来ないのに議長が意見を言い過ぎだと思いました。市長が介入しすぎることに署名活動がおきた意味がよくわかりました。

※いただいたご意見につきましては、教育委員会と共有し、教育ビジョンの策定及び教育施策を進めていく上での参考とさせていただきます。